

2004年4月20日(火)

化学工業日報

## 化学工業日報

### マレーシアの微生物由来物質

# NGS、三共と共同研究

医薬品候補物質の探索を行うバイオベンチャー、ニムラ・ジェネティクス・ソリューションズ(NGS、東京都)は、

マレーシアの微生物由来物質探索について三共と共同研究を開始する。NGSはマレーシア全土の土壌微生物を現地機関と共同開発する独自の権利を有する。三共独自のプロトコルで土壌微生物を採取、二〜三年内に創薬のリード化合物を見いだし、前臨床および臨床試験は三共の側で行

う。マレーシアは生物多様性の豊かさは世界の上位クラスにあり、新薬の創製で有効活用している。

NGSの創業者はマレーシアの森林に直接入り、先住民の薬用植物の使い方を九〇年代前半から研究、二〇〇〇年六月にベンチャー企業を設立した。大正製薬とは創薬共同研究でのアクセラトリアル契約を結んでいる。

から、世界の生物種の約一割が存在する。九三年に生物多様性条約が発効し、提供国の許可なしに遺伝資源を利用することができないようになった。NGSはマレーシア国立森林研究所(FRIM)と同国全土の土壌微生物を独占的に共同研究開発する契約を締結。生物多様性条約の要求を満たしており、FRIM内の研究所に二十名を配置している。

探索に関する共同研究契約を交わした。顧客側のプロトコルで土壌微生物の採取とその利用ができる点に特徴があり、契約期間は当面三年間。NGSとしてはスクリーニング系の充実、医薬品開発への進展が期待される。三共から研究費を受け取るほか、両社で特許を取得する化合物の開発を三共が単独で行う対価として、マイルストンとロイヤルティを得ることになる。

NGSのアライアンスは今回で五社目。マレーシアとの共同研究期間中は現地でセミナー、シンポジウムなどを開催し、現地への技術移転の一助としていく。